

kigokoro

EIDAI Corporate PR Magazine Summer 2021 / vol.8



生産拠点のご紹介



関東住設産業



新製品紹介

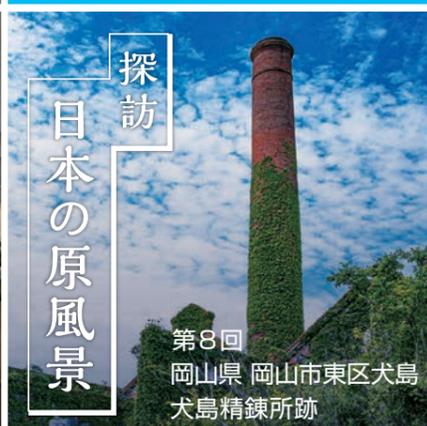


新たな物流管理システム構築に向けて



営業所・ショールーム紹介

岡山営業所・岡山ショールーム



探訪
日本の原風景

第8回
岡山県 岡山市東区犬島
犬島精錬所跡



EIDAI Headline News

kigokoro

Summer 2021 / vol.8



木を活かし、よりよい暮らしを

EIDAI

永大産業株式会社
www.eidai.com

お客様相談センター
☎ 0120-685-110

[受付時間] 平日・土曜日9:00~18:00 (休業日:日曜日、祝日、夏期休暇、年末年始)

Skism

スキスム

好きを暮らしに。
自分スタイルの空間づくり。

しあわせを感じるの「好きなもの」との出会いから。
好きを選んで、自由に組み合わせ、
気がつけば、家族の笑顔がはじける心地いい暮らしがはじまります。

EIDAI ショールームでお確かめください。

EIDAI SR

検索



ゲストを迎えるエントランスを、魅せる空間へ

シューズボックス・造作材編

グランマジエスト

内装材の最上位シリーズ「グレインエレメント」ハイエンド市場の開拓を目指し、市場調査とトレンド分析を行って誕生した「グランマジエスト」。前回は引き続き、今回は収納力と美しさを両立したシューズボックスの特長についてご紹介します。



1枚板のような連続した木目柄のシューズボックス「グレインエレメント ローボードタイプ」



フロート調デザインの「ローボードタイプ」のカウンター

機能性に富んだ両開きの収納「デュアル収納」



2色使いでワンランク上のインテリアを実現したシューズボックス「GMカラーエレメント トールタイプ」

異素材の質感をリアルに再現したシューズボックス「ソリッドエレメント ローボードタイプ」



洗練した空間を演出するスリム幅木色はブラックとシルバーの2色



コンセプトムービーはこちら



製品イメージカタログはこちら

エントランスをグレード高く演出する3つのデザインカテゴリー

上質な暮らしを求める人にとって、エントランスは、住まいの「格」を表す重要な空間です。そこで「グランマジエスト」のシューズボックスでは、「グレインエレメント」「ソリッドエレメント」「GMカラーエレメント」の3つのデザインカテゴリーを設定。思い通りの空間演出が叶う豊富なバリエーションをご用意しました。

天然木を用いたツキ板扉の「グレインエレメント」は、扉の割りに関わらず、1枚板のように見える連続した木目柄が特長です。「ソリッドエレメント」は、石材や金属のような質感をリアルに再現。「GMカラーエレメント」は、一枚ずつ丹念に塗り重ねる塗装扉です。

設置プランは、「ローボードタイプ」と、「トールタイプ」の2プラン。「ローボードタイプ」はカウンターの見付けを6mmと薄くして、浮いたように見えるフロート調デザインとしました。コーナーには両開きの「デュアル収納」を選ぶことができ、使い勝手を高めています。

いずれもボックスごとに完成品で納入するため、施工の手間を軽減しました。また、ミニマルな形状のスリム幅木も、ベースとなる樹脂部材に上からはめ込むだけの省施工設計で、洗練された空間を実現しています。

開発者の声

ツキ板扉や、天然石のカウンターなど「素材」に妥協せず、想像以上の仕上がりに。

造作家具のシューズボックスに負けないハイエンドな製品を。そんな想いから、チームの中心となって開発に取り組んだメンバーの声を紹介します。



シューズボックスの「一枚板のようなデザイン」は、どのようにして生まれたのでしょうか。

河本 最初はイメージをふくらませるため、海外のフアブリックなどを参考にしていました。その中で扉が一枚板のようになってきたデザインが思い浮かび、上司に相談したところ、当社は基本的に木製品を取り扱っているため、木でやってみるのがいいんじゃないかと。塚本 シューズボックスも建具と同じで、「グランマジエスト」は造作家具を手がける木工家具店などと競合することになります。そこでメーカーとして勝負するには、何か大きな変革が必要でした。建具の場合はそれが「厚み」でしたが、シューズボックスでは「素材」にこだわることになりました。

確かに、グレインエレメントの扉はシート貼りではなく、ツキ板で高級感がありますね。

河本 シューズボックスは建具のように厚みで勝負できないので、素材にこだわりたいと考えました。扉はツキ板の木目を活かし、カウンターも従来はシート貼りだったところを、今回は天

一番苦労した連続ツキ板の美しさをぜひ実物でご覧いただきたいと思います。



[左]内装システム事業部 商品部 河本 春香
[右]内装システム事業部 商品部 塚本 晃久

木目以外にも、美しさへのこだわりとしてどのようなポイントがあるのでしょうか。

河本 極力、無駄なものを削ぎ落とした「ノイズレス」なデザインですね。全体的にすっきり見せて、扉の質感を際立たせるようにしています。たとえば、ローボードタイプのボックスと天板の間に入れた15mmのくびれ。最初は入れていなかったのですが、試作するのとっぺりした印象になってしまつので、海外のキッチンを参考にブラッシュアップしました。また、ボックスを4つ並べるにしても、同じ4つのボックスではなく、扉を開けた時に不要な枠が見えたりしないよう、1つずつ細部にまでこだわって設計しました。

塚本 大変な作業だったと思いますが、その甲斐あって、最初に想い描いていた以上の製品になったと思います。ぜひご期待ください。

新製品「ブラックフレームカウンター」を発売



4月19日発売の新製品「ブラックフレームカウンター」は、空間を引き締める効果のある黒金属フレームと、天然木集成材カウンターを用いたシンプルな収納棚です。無機質な金属と温かみのある天然木という異なる風合いの組み合わせにより、製品そのものの魅力を引き立てると同時に、お気に入りの小物などを“魅せる”効果も期待できます。

さらに、当社の主力ブランド「Skism(スキスム)」として2020年8月に発売した「ブラックフレームインテリア」と組み合わせれば、より一層高級感、統一感のあるコーディネートが可能で、壁面、天井、床面に設置できるプランをご用意しています。



壁吊りタイプと床置きタイプ



天井吊りタイプ

銘樹ヘリンボーンの美しさを Instagramで今一度ご覧ください。



当社では情報発信の一環として、SNS(Instagram)を立ち上げています。

当社は、4月から6月にかけて放映され、大好評だったTBS系日曜劇場「ドラゴン桜」のセットに美術協力させていただきましたが、これについてもInstagramを通じてご紹介しています。ぜひInstagramの当社アカウントにアクセスしていただき、ドラマの中で教室と会議室の床材として採用され、物語を陰から支えた「銘樹ヘリンボーン」を今一度ご覧ください。



銘樹ヘリンボーン「会議室の舞台セット」



銘樹ヘリンボーン「教室の舞台セット」

新たな物流管理システム構築に向けて



安定供給と納期厳守の取り組み

二次元コードの活用

2018年の経験を糧に

当社は2018年9月、関西地方を直撃した大型台風により、大阪湾に面した生産拠点が大きな打撃を被りました。その際、物流システムに大きな混乱を生じさせ、お取引先様に大変ご迷惑をおかけしました。

この反省から当社は、生産拠点の複数化と、新たな物流管理システムの構築に乗り出しました。このうち後者については被災後、二次元コード(独自規格)を利用して、生産から配送までを一元管理する試みに本格的に着手しました。

もともと少量多品種で、邸別配送が一般的であり、なおかつ特注品も多い住宅部材をこうしたコードを用いて管理することは、他の業界に比べて非常に難しいのは事実でした。しかし、全国の建材店や工務店で組織する全国住宅産業地域活性化協議会(以下、住活協)が2019年、統一的な物流コードを設定して、建材流通の効率化を進める意向を明らかにして以降、風向きが大きく変わりました。当社は2020年、住活協の実証実験に参加するとともに、二次元コードを独自規格から住活協の統一規格に変更し、運用を始めました。

当業界では、物流における荷役業務をはじめ、労力の負担軽減が喫緊の課題となっていますが、統一規格による物流管理システムの普及は、

その課題を解決する一つの有益な手段であると見て間違いないでしょう。

1次配送まで二次元コードで管理

当社では、工場生産した製品をまず全国に設けた物流センターに配送します(1次配送)。次にその物流センターからお客様(ハウスメーカー様、ビルダー様、流通業者様ほか)に製品をお届けします(2次配送)。現在、当社では、工場での生産段階から物流センターに到着するまでの工程を二次元コードで管理しています。ちなみにこの二次元コードは、梱包に直接印字したり、ラベルを貼ったりと生産品に応じ、最も適した方法で表示しています。



係員による二次元コード読取作業



二次元コードで誤配送を防止



建設中の本社物流倉庫

合は、特にフローリングのロットごとのトレーサビリティ(生産から出荷までの過程の追跡)を、今後さらに明確化できる見通しです。

当社では、物流センターの重要な機能である仕分けやピッキング、2次配送のための積込作業についても二次元コードを活用する取り組みを始めています。近い将来、2次配送を経たお客様のものにお届けするまで、全て二次元コードで管理することを目指しています。

さらに当社では現在、本社敷地内に約15億円を投じ、新しい2階建ての物流倉庫(延床面積約2850坪)を建設しています。工事は順調に進んでおり、計画ではこの9月に竣工する見通しです。当社はこの新倉庫完成を機に、さらにお客様へのサービスを強化していきたいと考えています。

日本の原風景

第八回 岡山県 岡山市東区 犬島
犬島精錬所跡



今も残る、近代産業遺産でもある銅の精錬所跡

かつて銅の精錬所として栄えた犬島。銅価格の暴落により衰退したこの島は、地域創造のモデルとしてアートの島となって蘇った。

岡山県東区にある宝伝港より定期船で約5分、瀬戸内海に浮かぶ犬島は、明治には銅の精錬所として一大産業を築いていた。その後、銅の価格が暴落、約10年で役目を終え操業を停止した。最盛期には5000名の人々が暮らしていた島も今では約50名ほどしかない。細い路地が迷路のように入り組んだ集落、まるで刻を止めたかのように当時の姿を今に残している精錬所跡を活用し、2008年より地域創造モデルとして「犬島アートプロジェクト」が始まった。ここでは日本の近代化を物語る遺構を間近で見ることが出来る。また、中国山地の山懐に抱かれた吹屋には、精錬・造する職人が暮らしていたベンガラ色の外観で統一さ



吹屋ふるさと村(岡山県高梁市)



営業所・ショールーム紹介 岡山営業所・岡山ショールーム

お客様に必要とされる地域密着型を目指して

1964年6月、岡山出張所として発足後、関西と中四国を結ぶ交通の要衝である岡山県を中心に、地域のお客様へのサービスに努めてまいりました。ショールーム併設型の営業所に生まれ変わり、現在の場所に移転してから、来年(2022年)の7月でちょうど30周年を迎えます。今後もお客様に必要とされる地域密着型の営業所・ショールームを目指してまいりますので、さらなるご支援を賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

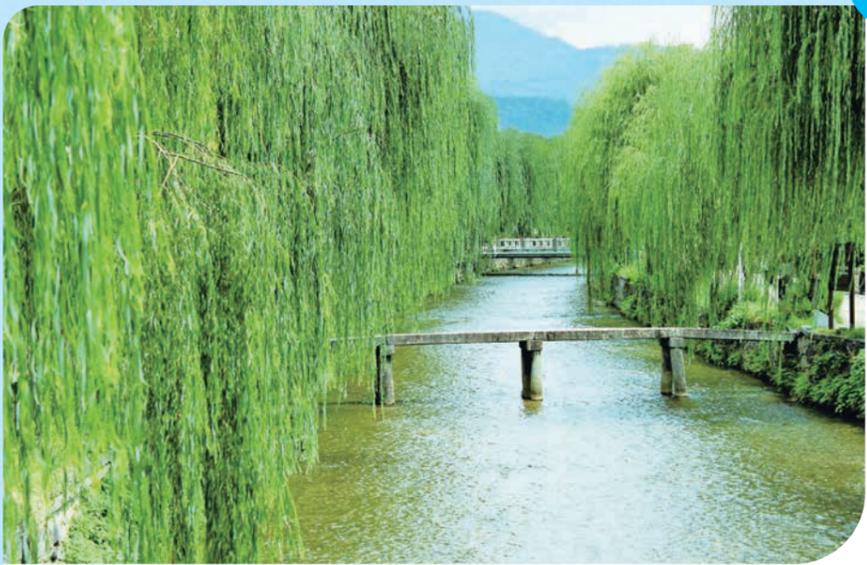
住 所 〒700-0975 岡山市北区今3-1-44
休 館 日 土曜日、日曜日、祝日、夏期・年末年始、5月連休
営業時間 AM10:00~PM5:00



岡山営業所・ショールームスタッフ
写真左から、市岡・杉山・奥田・宮原・郷田(所長)・安藤・吉田です。

木と俳句

有名な俳人の句に詠まれた木についてご紹介します。



葉柳やたらひのさぬの浅みどり
泉鏡花

幻想文学の先駆者であり、数多くの俳句も残した泉鏡花

明治後期から昭和初期にかけて活躍した泉鏡花。『高野聖(こうやひじり)』などのロマンと幻想に満ちた小説で知られていますが、実は戯曲や俳句も手がけていました。小説の師匠でもあった尾崎紅葉が主宰する俳句結社『紫吟社(むらさきぎんしゃ)』に属し、俳句においても鏡花らしい妖艶な作品が多く見られます。

庶民の洗濯シーンから生まれた夏らしい涼やかな一句

「葉柳や」の句では、日常風景の中にある小さな偶然が美しく切り取られています。葉が生い茂りながら垂れ下がっている葉柳は、夏の季節、近くに置かれた盥(たらい)の水に、洗濯中の衣類が浸かっています。その色が浅みどり(薄い緑色)に見える

いっなのは、葉柳が水鏡に映り込んでいるのでしょう。難解な句も多く残した鏡花にしてはイメージが浮かびやすい一句です。夏らしい涼やかな情景ですが、鏡花の幻想的な世界観からすると、一種のなまめかしさも感じさせます。盥の中の衣は、おそらく女性のものではないでしょうか。

生け花、まな板、柳行李... 現代では建築構造にも使われる柳

鏡花の句に詠まれた柳はシダレヤナギでしょう。他にも日本では約30種以上のヤナギ類が見られます。たとえば、ふわふわとした銀白色の花穂(かすい)が特徴的なネコヤナギ。生け花に使われるウンリユウヤナギ。また、最高級品とされる柳のまな板に使われるのはバックヤナギ。さらに、コリヤナギを編めば荷物を入れる柳行李(やなぎごうり)になります。近年は、木片を固めてつくるパルティクルボードにも柳が使われています。技術の進歩によって強度が上がり、パルティクルボードは住宅などの構造用としての利用も可能になりました。日頃は意識しなくても、意外に身近な住空間で柳が活躍しているかもしれません。

柳

ヤナギは、ヤナギ科ヤナギ属の樹木の総称。主に北半球に分布し、世界には約350種ものヤナギ類が存在する。日本でヤナギと言えばシダレヤナギを指すことが多い。材としてはどの種も軟らかく、肌目は精。

ちょっと一息。

column

関東住設産業株式会社 業務開始から1周年

東日本エリアに向けた生産拠点として基盤を確立

永大産業株式会社の100%出資子会社・関東住設産業株式会社(群馬県前橋市)が、7月1日をもって業務開始から1周年を迎えました。



関東住設産業株式会社

関東住設産業は、東日本エリアで住設事業を強化するとともに、BCM(事業継続マネジメント)を推し進めたい永大産業と、事業の構造改革に取り組んでいた株式会社ノーリツとの思惑が一致して誕生した企業です。

2021年7月で業務開始から1周年を迎えましたが、設立当初の関東産業株式会社の時代から数えると、ゆうに60年近くにわたったものづくりに携わり、製造のノウハウを蓄積してきました。ちなみに永大産業と関東産業との関わりは2008年までさかのぼります。当時、永大産業は首都圏を含む東日本で、システムキッチンや洗面化粧台といった水回り製品の拡販を目指そうとしていた時期にあたり、品質に定評のあった関東産業に対し、それらの一部の生産を委託したのでした。現社名である「関東住設産業」も、過去のこうした縁がもととなっております。

関東住設産業では1994年から扉の内製化に踏み切るなど、今日まで木質材料の加工技術の向上に力を入れてきました。たとえば、意匠性を高めるため扉の四方の木口に化粧シートを巻き込みながら立体的に貼る「3次元四方R」という加工方法なども得意としています。また新規の事業として、2020年9月からは玄関収納(シューズボックス)の生産も開始しました。

同社にはこのほか、キッチンのワークトップやシンク用に、アクリル系人工大理石を成型加工する技術もあります。

永大産業では主にステンレスの加工を行っていたため、同社が傘下に加わることで、永大グループとして製品開発の可能性が広がりました。なお、同社では環境負荷の低減にも力を入れており、ISO14001(環境マネジメントシステム)の取得はもちろん、木製部材の加工時に出る廃材を粉砕してチップ化し、県内のバイオマス発電所に送って有効利用するという群馬県初の取り組みも行っています。

関東住設産業株式会社 沿革

- 1961年 9月 関東産業株式会社設立
- 1975年10月 前橋市関根町に本社工場を新築
- 1986年10月 本社および工場を所在地(前橋芳賀東部工業団地)に移転
- 1991年 1月 (株)ノーリツと業務・資本提携し、ノーリツ傘下に
- 2000年 2月 人工大理石の生産を開始
- 5月 ISO9001の認証を取得
- 2004年11月 ISO14001の認証を取得
- 2013年 8月 木質廃棄物のバイオマス燃料化を開始
- 2019年 2月 (株)ノーリツの連結子会社の(株)アルビーに事業譲渡
- 2020年 4月 (株)アルビーのキッチンライフ事業所の一部事業が永大産業(株)へ事業譲渡 新会社名 関東住設産業(株)
- 7月 永大産業グループとして事業開始
- 9月 玄関収納の生産を開始

関東住設産業株式会社 会社概要

所在地	〒371-0122 群馬県前橋市小坂子町 923番地2 TEL:027-269-1177(代表) FAX:027-269-1004
代表者	代表取締役社長 久米 直哉
事業内容	システムキッチン・洗面化粧台・玄関収納などの企画・開発・製造・販売
設立	2020/4/7
資本金	20百万円
従業員数	88名(2021年4月1日現在)

関東住設産業生産品のご紹介 システムキッチン/洗面化粧台/玄関収納

関東住設産業では現在、次のような製品を生産しています。いずれも確かなものづくりと徹底した品質管理で、全てのお客様に自信をもってご提案できる製品ばかりです。ご用命の際は、ぜひ最寄りの永大産業の営業所までおたずねください。



システムキッチン「ラポtte」



システムキッチン生産ライン①



システムキッチン生産ライン②

システムキッチン

システムキッチンでは、主に「ラポtte」を生産しています。「ラポtte」は、普及価格帯(ボリュームゾーン)向けに開発し、値ごろ感のある価格に設定しながら、使いやすさや手入れのしやすさを徹底的に追求した製品です。



「シャンピーヌブレーン」



「キューボブレーン」

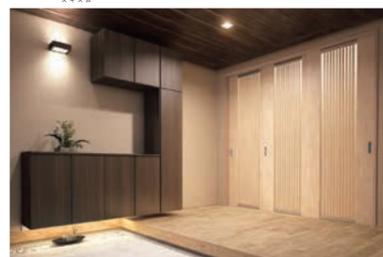


洗面化粧台生産ライン

洗面化粧台

洗面化粧台では、中々高級価格帯で壁出し水栓の採用により多目的に使用できる「キューボブレーン」、普及価格帯ながら陶器ボウルの採用で機能性を高めた「シャンピーヌブレーン」を生産しています。いずれも掃除がしやすく、また使い勝手に優れている点が大きな特長です。また豊富なアイテムを多数ご用意しています。

Skism



「スキスムS」



「スキスムT」



玄関収納生産ライン

玄関収納(シューズボックス)

関東住設産業の中では、最も新しい生産品目です。当社のブランドである「スキスムS」「スキスムT」のうち、多様なプランに応じた製品を生産しています。豊富なカラーバリエーションに加え、扉の隙間を目立ちにくくした仕上りの「レスフラットデザイン」の製品もございます。

関東住設産業株式会社
ホームページ



詳細はこちら

『ウッドショック』年内は厳しいという見立てが大勢 ～こんな時、どうしたら良い？～

『ウッドショック』が業界で喫緊の話題となってから数ヶ月がたちました。すでに木材関連に留まらず、鋼材など他資材も価格が上昇してきたように、建材全体に影響がおよんでいます。その影響は地域差もあるようですが、現場が止まった、などのケースも見られるように、工務店の対応の遅れも問題となっています。

このような状況になった理由は、新聞その他、多くの情報が出ていますので割愛しますが、まだまだ終息の兆しは見えず、当分この状況が続くというのが共通した見解です。住宅会社にとって、仕事をストップさせてしまうことが最大のダメージとなりますので、材料の確保を最優先に、対策を講じなければなりません。

この難局を乗り切るために、何をすべきなのか、住宅会社を取り組んでいる内容から考えてみたいと思います。

材の確保

仕事がストップして資金ショート、という状況は絶対避けねばなりません。すでに、ほとんどの資材業者が新規の受け入れ不可能で、お得意様と昨年並みの取り引きを維持することさえ難しい状況です。少しでも「この会社は面倒」と思われれば門前払いとなるでしょう。要望や金額はさておき、材の確保が何より最優先です。今まで、どのようなお付き合いをしてきたかに大きく左右されるところですが、積み上げてきた関係をさらに大事に、動くときは自社から動く。材料の融通をつけるために、手を尽くしてください。

先行手配のさらなる徹底

供給体制の今後が見通せない中、資材業者さんにとってどんな住宅会社との取引であれば比較的安心か、といえ、発注が先の先まで読める、先行手配が徹底されている住宅会社でしょう。この点は業務改善に絡んでくるテーマですが、先行管理・手配を徹底させましょう。プラン・仕様の確定スピードから、発注までの業務内容を見直し、明確化・効率化してください。

コストアップ対策

すでに規模の大小問わず、商品の値上げや見直しの動きは進んでいます。多くの企業で商品の値上げに踏み切り、さらに二段階・三段階の商品改訂・値上げを予定している、という話も出ています。一般的に工務店が頻りに商品価格を上げ続けることは難しく、商品の見直し・価格改定以外、どこでコスト上昇分を吸収するかは大きな課題です。外的要因はどうにもなりませんので、社内体制に目を向け、仕様の変更や商品のコスト面の見直し、先述の業務効率向上や合理化を進める、ことによるコストダウンで補うことになるでしょう。

お客様への対応

すでにお客様は情報を得ておられます。ウッドショックへの対応について尋ねられることを想定しておきましょう。特に価格・工期の対応にも注意が必要です。今後も価格高騰の可能性を含む不安感が高まっていますが、一部の企業では資材供給体制に強みを持ち、ウッドショックを逆にアピールに使うケースも目立ってきました。どのようにお客様に自社の状況を説明し、安心していただくか、という点は明確にしておきましょう。

今後、先行きが見えない状況ですが、さらに情報感覚を鋭敏に、一歩でも先行して取得することが大事です。コロナ禍にウッドショック、外的要因に左右されるのは周囲も同じです。厳しい状況ですが、乗り越えていただきたいと切に願っております。

最低でも年内は続く想定で動きましょう

今まで築いてきた関係をより大切に、材を切らさない努力を

コストアップ対策のためにも、業務改善による経営合理化を

お客様は知っています。顧客対応方法は明確にしておきましょう

一歩でも先に情報を得る努力をしてください

今回からシリーズで当社の建具製品の歴史をひも解いていきます。

EIDAI HISTORY 第8回 内装材（建具製品）の開発 前編

当社が初めて手掛けた建具製品は、1969年に永大住宅機器シリーズとして開発、発売した「永大玄関ユニット」でした。いわゆる玄関ドアです。

1967年に99万戸と100万戸台目となった新設住宅着工戸数は、1969年には134万戸を記録しました。工業化された供給時代を迎えた住宅産業は、それに応える製品を必要としていたのです。

1961年に初めて住宅用のアルミサッシが登場し、1965年にその改良版が発売され、大きな話題を呼びましたが、当社の「永大玄関ユニット」も、片側の袖に採光用の固定式窓（片袖FIX）のある片開き戸で、扉本体や枠材に金属（アルミ）を用いていました。



永大玄関ユニット

しかし、こうした金属製の玄関ドアは、一貫生産に強みを持つ他社が先行していました。そこで、同じ土俵では勝負できないと判断した当社は、金属製の玄関ドアをそれ以上深掘りすることなく、得意分野である木製に力を注ぐことにしました。

原材料は表面の光沢が美しく、加工しやすい樹種であるアガチスは東南アジアを中心に広く分布し、当時は製材用として安定的に入荷していました。南洋材としては珍しい針葉樹だったため、市場ではナンヨウヒノキなどの名称で売買されていました。

1976年、当社はアガチスの無垢材を用いた初の木製建具を「ルーベンスドアー」という製品名で売り出します。

「ルーベンスドアー」は内装用（室内ドア）にウレタン塗装を、また外装用（玄関ドア）には、耐水性を高めるため、ウッドデッキなどによく用いられるWPS塗装（Wood Protection Stain）を施しました。

1986年以降は「室内ドア」に絞って販売



エイダイドアー（エイダイドアー）

さらに、外装用については、扉本体や枠材、金具材といった部材のセット化を推し進め「ルーベンスドアーユニット」という製品名で販売します。

ちなみにアガチスを用いて木製の玄関ドアを生産するメーカーは当社のほかにもありました。しかし、材料の入手難のほか、金属製玄関ドアが優勢となるなど、次第に生産は下火となっていきました。それからすでに30年以上が経過し、今日、住宅リフォームを営む企業の中には、経年劣化した木製玄関ドアのメンテナンスを請け負うところもありません。

さて、当社の木製の建具の開発はなおも続き、1979年に「エイダイドアー」を発売しました。この製品も外装用と内装用の2種類を用意し、外装用は特殊ポリウレタン仕上げ、内装用は無塗装・現場仕上げとして発売しました。

「エイダイドアー」にはアガチスのほか、メルサワやニヤト、あるいはメラピーなど、当時大量に入荷していた南洋材や、加工しやすい北海道産のタモを用いました。また住宅の洋風化にともない、上部をアーチ形とした製品のほか、1981年にはルーバー、格子扉のついた窓も発売しました。

「エイダイドアー」は1983年、「エイダイドアー」に製品名が変更され、内装用ではステンドグラスをあしらったデザイン重視のドアや、原材料にパーティクルボードを用いた製品も登場しました。

しかし、当社は木製の玄関ドアで、どうしても耐候性という壁を乗り越えられず、最終的に1986年以降は、内装用の室内ドア一本の生産・販売に絞る決定を下したのです。

- 1946 (S21)
- 1950 (S25)
- 1955 (S30)
- 1960 (S35)
- 1965 (S40)
- 1970 (S45)
- 1975 (S50)
- 1980 (S55)
- 1985 (S60)
- 1990 (H2)
- 1995 (H7)
- 2000 (H12)
- 2005 (H17)
- 2010 (H22)
- 2015 (H27)
- 2020 (R2)

編集後記

木材などの原材料価格が高騰し、巷では第3次ウッドショックと呼ばれているようです。第1次、第2次どちらも経験しましたが、個人的には1992年の「原木伐採の大幅削減（マレーシア・サラワク州）」が、引き金となった第1次の方がより記憶に残っています。南洋材原木の主要調達先であったサラワク州の発表は、とりわけわが国の合板メーカーに大きな衝撃を与えました。当時インドネシア産合板は、すでにわが国で高

いシェアを誇っていましたし、結局、わが国の多くの合板メーカーはこのショックに耐えきれず、2000年代初頭までに統廃合を余儀なくされました。しかしそのインドネシアの勢いも長くは続かず、主役の座はのちにマレーシアにとって代わられました。今回のウッドショックが当業界に与える衝撃と影響はまだ計りかねますが、もしもしたら考えもしなかった何らかのパラダイムシフトが引き起こされるかもしれません。

お断り：原則、文中での敬称は省略させていただいております。